

廃線敷きおもてなし促進事業

取組に至る背景・事業の目的

昭和 63 年の J R 篠ノ井線の複線化により廃線となった安曇野市明科にある廃線敷きは、地域住民によって立ち上げたボランティア組織「ケヤキの道の会」と行政との協働により、トンネル、観光客用のトイレ及び観光案内板などの整備、沿線の環境整備などを進めた結果、沿線に 3 万本のケヤキの森が広がる、自然豊かな約 6 k m のトレッキングコースに生まれ変わり、新しい安曇野の観光地となった。しかし、コースの延長距離が長いものの、時間や距離の目安となるものが乏しく、せっかく訪れていただいた観光客には、時間的、計画的な行動がとりづらく不便をきたしており、十分な「おもてなし」ができない状況にあった。

事業内容

■ 距離標の設置

利用者が計画的な目標を立てる目安として活用いただくため、環境整備とともに、地域住民自らの手により延長 4.5 k m の区間に 100 m 毎の距離標（実際に鉄道敷きに使用されているものを用いた）を 40 本設置

■ 記念スタンプの設置

訪れた観光客の思い出としていただけるよう、会員が考案した記念スタンプを 2 基設置



【 距離標設置の様子 】

事業効果

「健康維持」という新しい付加価値が加わることにより、利用者の利便性を高め、更に当時鉄道敷きであった面影も残すことができ、観光資源としての質も高める相乗効果をもたらした。

また、この整備により、交通事故などの心配もなく高齢者も安心してウォーキングができる専用トレッキングコースとなった。沿線には約 3 万本に及ぶケヤキの森があり、森林セラピーとしての効果も高く、健康維持のためのウォーキングやストレス解消などの効果が期待でき、ウォーキング、インターバル速歩に最適な実践地となった。

この事業を通じ、地域自らの手により、地元にある貴重な宝を次代へ引き継いで行こうとする機運の高まりと、地域住民主体による温かみがある「おもてなし」ができる観光地としての誇りを持ち、個性を生かした集客力のある地域づくりができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今後も、地域一体となった環境整備に努め、より心温まる「おもてなし」を行っていく。

また、地元小学校や、P T A、育成会など連携し、地域の宝、歴史的価値のある施設を、地域の将来を担う次世代の子供たちに伝承していく生涯学習の場として提供し、地域への愛着、地域コミュニティ振興の助成を図る取組を活性化していく。

【選定のポイント】

住民が自主的・主体的に実施しており、来訪者の利便性を高め、観光資源としての質も高めたことにより、近代遺産として新たな地域の観光資源となり、来訪者の増加などの成果が出るなど、モデル性に優れた事業で評価できる。

団体名	ケヤキの道の会（安曇野市）	事業タイプ	（ソフト事業）
連絡先	0263-62-3082（会長 小林重雄）	事業費	583,852円
		支援金額	428,000円